

---

---

# 歌って 踊って We are one

## 大空祭の『ライオンキング』で感動をともに

群馬県立高崎高等養護学校

主題 総合的な学習の時間と教科連携による全校ミュージカルへの取り組み

学校長 岡田 孝夫

生徒数 99名

学級数 12学級

執筆者 教諭 長谷川 良弘 松村 正史

住所 高崎市柴崎町1838-2

電話 027(353)3155

URL <http://www.gsn.ed/jp/gakko/toku/takasakiky/>

---

---



### 1 ミュージカルへの取り組み

総合的な学習の時間が導入され、本校では移行期間からの実施以来、一貫してミュージカルに取り組んでいる。このことにより、特色ある学校づくりに努めるとともに、学習活動の積極的な情報発信を行ってきた。



身体表現「ヌーの大暴走」のリハーサル

#### (1) 総合的な学習の時間として

学校週五日制が完全実施となり、週30時間という限られた中で、本校では「総合的な学習の時間」として、1単位時間を週時程表の中に組み込み、必要に応じてまとめて実施

できるよう配慮している。ロングホームルームの時間との連携を視野に入れ、ロングホームルームの後の月曜日の第2校時に設定した。指導者は全教職員であり、各単元において随時担当者が指導計画を作成し、担任とともに指導に当たっている。

本校の総合的な学習の時間の主な単元としては、環境、自立と社会参加（進路学習）、ミュージカル、健康等が挙げられる。ミュージカルは二学期の文化祭（大空祭）での最大の出し物としてその準備の時間と規模の大きさと、教育活動の意義も大きなものがある。また、生徒にとっても、意義深いものとなるような指導・支援がなされなければならないものである。

ミュージカルに関する総合的な学習としての具体的な実施内容は以下のとおりである。

- 7/ 8(月) 全体会
- 7/15(月) 学年別パート練習
- 9/ 2(月) 学年別パート練習  
(2時間実施)
- 9/ 9(月) 学年別パート練習
- 10/ 7(月) 学年別パート練習
- 10/21(月) 通し練習  
(LHRと関係)
- 10/23(水) 劇団員指導(3時間)

## (2) 各領域・教科として

総授業時間数が縮減される中での「総合的な学習な学習の時間」の創設ということについては、各教科と「総合的な学習な学習の時間」との相互の関連が重視されなければならない。ミュージカルに関しては、保健体育での身体表現(1学年)、音楽での器楽と合唱(2学年)、国語での台詞と演技(3学年)、小道具作製に関わる美術、衣装作製の被服と家庭、舞台大道具に関わる木工、その他関わりの持てる全ての領域・教科での学習の総合となっている。年度当初から学習指導部を通じて、各領域・教科でミュージカルの発表に向けた学習を年間指導計画に組み込むよう呼びかけ、今まで以上に関連を深めた取り組みを展開している。

今回は、平成14年度上演作品『ライオンキング』の取り組みについて紹介する。

## 2 ライオンキング

上演日時 平成14年11月2日(土)3日(日)  
『大空祭』 11:00～12:15

会場 本校体育館特設ステージ

演目 ライオンキング  
(本校オリジナルバージョン)

キャスト 全校生徒90名

### あらすじ

前年度上演『ライオンキング』では、国王ムファサが弟スカーの悪巧みによって殺され、国を追われた王の息子シンバが、親友ティモンとプンバァに助けられ、自らの勇気と力で王国「プライドランド」を取り戻した。やがてシンバはナラと結婚し、王女が生まれた。

スカーの一族は王国から追放され、アウトランドで飢えをしのいでいる。王女キアラは冒険好き。アウトランドで子ライオンのコブと出会い、仲良くなる。

スカーを慕っていたジラはこれを利用し、



亡き王ムファサを背に、長老ラフィキ

コブを仕込んでシンバへの復讐を誓わせる。

成長したキアラはジラに仕込まれ、コブと再会する。はじめは復讐を狙っていたコブもキアラの純粋さに打たれて、二人は恋に落ちる。スカーの悪行を聞かされたコブは自分が間違っていたことに気づいて改心するが、シンバはジラの計略を知りコブを追放、キアラも後を追う。

一方、コブの様子に業を煮やすジラ。手下のライオンと共に王国に攻め込み、シンバを倒そうとするが、かつての仲間同士の争いをやめさせようと勇気を持って戻ってきたキアラとコブが間に入り、王国は再び共生と平和を取り戻す。

プライドランドにシンバと仲間たちの声が響きわたる。「私たちは、ひとつだ！」

### プログラム

	オープニング
第1場	王女の誕生
第2場	おてんばな王女
第3場	アウトランド
第4場	ふたりの出会い
第5場	私たちはひとつ
第6場	復讐の牙をとぐ一族
第7場	成長したコブ
第8場	畏にかかったキアラ
第9場	シンバの心配
第10場	恋の予感
第11場	待ち伏せ
第12場	追放
第13場	愛があれば

## 第14場 最後の対決 エンディング

### 3 いきいき生徒の実践紹介

#### (1) ライオンキングの咆哮

普段の中村君は感情表現が苦手だ。演技でも表情が硬く、台詞も一本調子になりがちだった。しかし、うまくいかなかった場面や、台詞のミスに関しては、指導者に何度も確認し、練習をするといった様子がみられた。

なにしろ、役どころは一番目立つ王様シンバ。本番前は舞台袖で「緊張するなあ・・・」を連発。脚本を何度も見て、入念に台詞のチェックを行い、独り言のように繰り返すなど、かなり慎重に臨む様子がみられた。

「とても難しいと思っていたけど、本番ではうまくセリフや演技ができてよかったと思います。3年間で一番楽しい思い出でした。」と語ってくれた。ライオンキングは中村君の「わたしたちはひとつだ」の叫びでエンドとなった。



合唱「ユペンティアー」のリハーサル

#### (2) 迫真の演技

声の質ととおりのよさでコブ役に抜擢された佐藤君。夏休みの特別練習にもほぼ毎回参加した。台詞の覚えも早く、的確であった。

主役級ということで、佐藤君の演技に対する要求が高くなり、つい厳しい口調で指導してしまうことが多かった。「はい」と必ずよい返事をし、表情をあまり変えないので気にしていなかったが、実は佐藤君の中ではかなりのストレスがたまっていた。

本番を間近に控えたある日、練習終了後「みんな嫌いだあ！」と飛び出し、更衣室で大荒れ・・・その後の説得でようやく落ち着きを取り戻した。次の日は普段どおり登校し、練習にも参加できた。

本番での怒りの感情を表す演技は、真に迫っていた。そして、追放の場面では、シンバの誤解から全体を敵に回し、絶望しながら放浪の旅に追いやられ、頭を抱えながら後ずさりする。ここも見せ所で、観客を魅了した。

終了後の作文では、「せりふと演技を覚えるのはとても大変だったけれども、コブの人物像が自分なりに表現できてよかったです」と書いている。



敵対するシンバー族とジラー族

#### (3) ドラムへの挑戦

「ジラのララバイ」の歌では、ジラの悪役ぶりを引き立てるためにドラムセットを使うことになった。いつも3年生が音楽の授業でドラムを叩いている姿にあこがれていた加藤君はさっそく立候補。休み時間も毎日のように音楽室に通い、曲に合わせて手と足を使ったドラムの基本ビートをマスターした。教師が教えたのはここまで。その後加藤君は曲の雰囲気に合わせて「カッコいい」リズムを自分で工夫し、本番では見事な演奏を披露した。

#### (4) 歌声も伸びやかに

いつもおだやかでにこにこしている山崎さん。歌の分野では隠れた才能を持っていると思われていたが、なかなか自己主張できる機会がなかった。2年生は歌唱がメインということで、一人一人の課題に応じたきめ細かな支援や徹底的な反復練習を行い、歌唱能力の向上をめざした。やがて自分の声の美しさに気づいた山崎さん、「低い音程の小さな声」

から「高音も伸びやかで豊かな声」への変貌を遂げ、本番では自信を持った歌唱を披露した。

#### (5) 照明係は僕だ

堀口君は、歌や踊りは大の苦手。ミュージカルの練習が重なる日々を苦痛に思っていた。1年の秋、どうしても参加できないとお父さんに言い出した。担任とも相談の上、照明係りとして参加することになった。当日には、照明灯一機を完全に使いこなし、色の変化や照明ワークも頭に入れて、さらに自分で工夫も加えた。これは、数年来、ベテランの教師が一人専属でこなしていた仕事だ。

2年の時も照明係りを完璧にこなした。文化祭でのミュージカル最後の場面は、ステージ前に全員集合しての大合唱。ここで、歩み寄った先生にそっと背中を押されると、遠慮がちにクラスの仲間とステージ前に片膝を立てたポーズで並んだ。2日目は、拒んでいたそろいの衣装も羽織って大役をやり遂げた満足感を持ってみんなと並んだ。複雑な照明操作をしていたことに観客の方々は気づいてくれただろうか。

#### (6) ユペンティーが大好き

大前君の役は、動物の家族たち。チーターの親子になって他の2、3年生と仲むつまじくダンスをする。3年生に手を引かれてステージに登場したが、ここまでの道のりは長かった。

1年生の時、見せ所のヌーの大暴走の場面では、大音響に驚き、体育館にいることもできなかった。とにかく大きな音が大嫌いだ。頭につけていたかぶり物も気になってむしり取ってしまった。

でも、今年は3年生と親子の役になったこともあり、いつも先輩がそばにいてくれた。待っているときも、控えの場所でじっと我慢もできるようになった。

出番の時、先輩があまり強く手を引くのが痛かったけれども、ちゃんと自力で出入りができ、みんなと一緒にステージを務めた。美術で作ったチーターのお面もしっかり最後までかぶっていられた。

1日目のユペンティーの場面で、出番ではないのに1年生と一緒に飛び出してしまった

けれども、僕はこの曲が大好きなんだ。

#### (7) ダンサーになった二人

ユペンティーでの冒頭部分、ステージの両サイドから飛び出した二人が身体全体をのびのび使い、リズムカルにコミカルにそして、ライオンそのものになりきって踊った。

練習が始まった頃には、「先生、こんなの恥ずかしい。」と山本君が言えば、「オレ、目立ちたくない。」と言う清水君。もともとカッコウ付けたがり屋の山本君は髪型をいじったり、表面だけ目立とうとした。反面、ちょっとできそうもないことからカッコウの言い訳を準備して逃げようとしたりしていた。

そんな二人が練習を積んで行くうちに変わってきた。「こうしたほうがいい?!」「どうしたらカッコよく踊れる?!」と質問が次々に飛び出してくる。なんどとなく繰り返されるリハーサルにも弱音を吐かなくなっていた。

メルヘンの世界へ観客を誘い込んだ清水君と山本君。二人のダンサーが誕生した。



合唱の肥が体育館いっぱい響く

#### (8) ティモンとブンバァが重要

宮一君と佐藤君は幕間のたびに登場してミュージカルの展開を盛り上げたり、解説したりする重要なティモンとブンバァ役を担当した。

夏休みから始まった練習では、学校だけではなく、自宅でも二人で台詞の練習をしていた。

宮一君は「ここはこう変えた方がよいのでは?」と脚本の台詞に関して提案してきたり、どうしたら観客に伝わるかなど、台詞の言い

方や演技にも、工夫が随所に見られた。

本場では二人の呼吸が役柄にぴったりと合い、絶妙の面白みを演出してくれた。

#### 4 感想と反響

##### (1) 生徒の感想文より

「みんなでした」

ミュージカル ライオンキング をして、みんなでした。たのしくできました。じぶんはたのしくできてよかった。



身体全体を使ってライオンの表現をする

「自分でおどりをかंगाえて」

私は、シマウマの役をやりました。シマウマのえんぎを一生懸命練習しました。練習の時は失敗とかがたくさんあったけれど、本番はひとつもまちがえないでえんぎができました。シマウマのえんぎは、自分でおどりをかंगाえておどりました。少しきんちょうしました。歌を大きな声で一生懸命歌いました。

「来年もまた」

初めてのミュージカルの練習は、身体表現を覚えるのがとても大変で、最初は少し間違えてしまったけれど、毎日頑張って練習をしているうちに、だんだんと上手に出来るようになり、本番がとても楽しみになりました。大空祭当日の朝、間違えないで出来るかとても心配になりましたが、「頑張ってみよう。」と思い、学校へ行きました。ミュージカルの準備をしてから、出番を待ちました。他の人が出て、自分の番が来るまでドキドキしながら

待ちました。みんなが見ていてちょっとはずかしかったけれど、一生懸命頑張ってやりました。えんぎが終わって、みんなからはくしゅをもらって、毎日の練習はとても大変だったけれど、「頑張ってみよう。」と、何だかとてもうれしくなりました。来年もまたミュージカルをするのがとても楽しみになり、がんばってやろうと思いました。

「一番の思い出」

僕の高校に入ってから一番の思い出は、大空祭のミュージカルです。1年のときは身体表現をしました。僕はふりをよく覚えました。2年のときは歌と楽器をしました。あと、ハイエナによる「食っちまえ！」のところでハイエナダンスとして踊りました。ダンスのふりはとても難しかったです。

そして、いよいよ最後の年のミュージカルになりました。3年はセリフと演技でした。最初は「なんの役にしようかな」と思いました。僕はプライドランドのライオンになりました。セリフは一言でしたが、ライオンの役になりきりました。そして、3年間の最後のミュージカルがやって来ました。緊張したけれど、大成功に終わりました。



戦いの場面で迫真の演技

##### (2) 観客の方々の感想(アンケート)より

・ミュージカル、圧巻でした。生徒と職員が一体になり、すごい努力のあとが見られてすばらしい発表でした。

・一人一人の表情がすばらしく、涙があふれて仕方なかったです。我が子がいるわけでもないのに、この感動は本物のもつすばらしさ

からだと思います。

・ミュージカル、本当に素晴らしい取り組みだと思います。全校でひとつのものに力を結集することができているのを感じました。生徒さんの力強さを感じました。セリフもほんとうによく言っていて感心しました。感動をありがとうございました。

・(大空祭の中では)なんとと言ってもミュージカルが印象に残りました。それぞれの人達が力を出し合って、ものすごい感動を頂きました。来て良かったです。これからの学校により期待しています。

・全員参加であるのがよい。時間も1時間と、ちょうど良い。時間管理も良い。流れも良かった。この伝統が全群馬に広がればと思う。

・とってもすばらしかったです。衣装や大道具・小道具もすごいと思ったし、みんなの熱演に感動しました。学校が一体となって作り上げた舞台、とても良かったです。

・全員が自分の個性を生かしながらしっかりとミュージカルに参加していた。表情が明るくて、見ていて気持ちが良い。身体全体で取り組む姿に感動しました。



### 伸び伸びと歌い踊る、動物の家族たち

・ミュージカル、毎年感動させて頂いております。一生懸命な姿がいいですね。

・ミュージカル、可能性の大きさを感じました。

・一人一人の力が合わさると、あのような発表が出来るものかと感動した。

・去年も感動しましたが今年も又同じに涙しながら見させて頂きました。勇気をもらいました。又来年も楽しみにしています。

・今年も感動でした。人に感動を与えるとい

うことは、ほんとにほんとに素晴らしい。その点では障害があるないは関係ないですね。自分の生き方をも考えさせられました。

・毎年、バージョンアップされていて、今回はお話の流れに説明?も入りとてもわかりやすく、又、一年生の身体表現は素晴らしいの一言で、二年生の歌唱の力強さはたのもしさを感じ、三年生全体においての役割分担をしっかりとおさえて表現されていたように思います。もっともっと世間にアピールしても良いミュージカルだと思われましたよ!

## 5 取り組みの成果

### (1) 生徒の変容

紹介してきたように、このミュージカルへの取り組みには、生徒にもさまざまな変容をもたらしていると思われる。

まずは、生徒たちが主役となり、大きな舞台をやり遂げたこと。自分の役は自分がやらなければ誰も代わりはいないのである。ときには厳しく追い詰められる場面もでてきただろう。しかし、それを乗り越えた生徒たちは引き換えに大きなものを手に入れたはずである。

また生徒たちの発表は無心であり全力でもあった。私たちは一人一人の実態に合わせ、生徒が持っている力を最大限発揮できるように支援の努力をした。しかも、生徒は私たちが予想した以上の力を発揮し、自ら考え工夫しながら、授業の発表の域を超えた一人の演技者としての表現ができていたように思う。

ものごと一生懸命に取り組む姿勢。困難を乗り越えようとする努力。忍耐。支え合い。信頼。そして、やり遂げた後の自信。それは観客の方々にも、それから私たちにも感動を与えてくれた。

### (2) 職員間連携の強化

本校のカリキュラムは、養護学校と高等学校の特徴を兼ね備えた「教科制」を採っているが、各領域・教科の担当者がそれぞれの専門性を生かした指導・支援ができるというメ

リット的一方、学級担任が担当生徒の授業に出られる時間が少なくなるというケースもあり、職員全体としての連携の在り方が課題となっていた。

職員間連携については、「自立と社会参加」の方向性をもって、「個別の指導計画」等を活用した情報交換と共通理解の上に立った指導・支援を実践しているところであるが、ミュージカルへの取り組みによる教科間の連携と担当者同士の協力のためには、日頃の情報交換とコミュニケーションが必要になり、職員間連携の基盤となる横のつながりが確実に育ちつつある。

このことにより学校の教育活動全体が活性化し、それぞれの職員が意欲的に持ち味を発揮しながら、生徒が力いっぱい活動できるためのバックボーンが形成されつつある。

## 6 今後の課題

本校のミュージカルの取り組みは、学校の特色、生徒の実態や特性に応じた、横断的・総合的な学習になっており、文化祭という発表の場を持ち、全教師が一体となって指導に当たるなど、おおよそ、「総合的な学習の時間」の趣旨に合致していると思われる。練習の過程で依頼した劇団員指導などは、地域の人々の協力という配慮事項にもかなっている。今後の重要な課題としては、「総合的な学習の時間」のねらいである、

- |   |
|---|
| <p>(1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。</p> <p>(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすること。</p> |
|---|

の二つの観点をより堅実に踏まえた学習活動を展開することであろう。

生徒主体の活動においては、学習の過程で筋道を間違えて失敗することもあるかもしれ

ない。しかしたとえ失敗しても、その結果を自分自身で確認しながら再度取り組む中で、真の成就感も体得できるだろう。

今までの取り組みからも、教師が一方向的に教え込む指導・支援から、生徒が自ら学び考えることを重視した指導・支援への発想の転換こそが、生徒たちが学ぶ意欲を高めながら「生きる力」を向上させるのに不可欠であると感じられる。



H15上演『キャッツ』の台本読み合わせ

本校のミュージカルに対する取り組みは、各領域・教科の統合でもある。したがって、各授業の展開においても、以上のねらいを踏まえた学習活動が望まれるのである。そして、こうした観点を踏まえた学習活動への転換が、「総合的な学習の時間」が創設された趣旨やねらいに合致するものとなるはずである。

また、生徒主体という観点から、生徒が企画や裏方に関わったり上級生が下級生に教えたり伝承していけるような意識・態度の育成、情報発信をしながら地域、保護者、ボランティア等との連携や協力依頼をしていくための組織づくり、作品としての完成度を高めるための各授業での実践など、ミュージカルがより充実したものになるための工夫をし、この活動が単なる発表に終わることなく、学校のさらなる活性化にもつながっていけるような努力をしたい。

## 7 補 記

### 本校の「大空祭」とミュージカルの歩み

#### (1) 「大空祭」について

本校では、生徒の学習への取り組みの成果や学校施設を、保護者や地域の方々等に広く知っていただき、特別支援教育に対する理解を深めていただきながら、より充実した教育活動を行っていくために、学校開設年度より「学校展」を開催してきた。平成12年度より名称を「大空祭」と改め、実習や部活動に関わる実演や展示・製品販売、交流活動、PTAバザーや喫茶コーナー等を公開している。

その中で、全校生徒の取り組みとして、毎年ミュージカルの発表を行ってきた。大空祭とミュージカルは年々充実した内容となり、ご来場の皆様には好評をいただいている。

#### (2) ミュージカルの歩み

平成9年度 『サウンドオブミュージカル』

開校したてで生徒は1学年のみ、初々しくさわやかな歌声と演技による「ドレミの歌」などを披露。

平成10年度 『ウエストサイドストーリー』

スーツやドレスを身につけ、キレイのあるダンスや迫力溢れる演技で観客を魅了。

平成11年度 『キャッツ』

ようやく3学年が揃い、全員でネコになりきり、艶やかかつワイルドに熱演する。

平成12年度 『ライオンキング』

各学年が身体表現(1年)、歌唱と器楽(2年)、台詞と演技(3年)に分かれての取り組み。感動的なフィナーレを迎える。

平成13年度 『ライオンキング』

前年度と同じ演目をさらに熟成させての再挑戦。よりストーリー性がわかりやすくなり、表現能力も向上。

平成14年度 『ライオンキング』

ライオンキングの完結編。大道具や小道具、衣装、照明等も充実。生徒たちは役になりきり、本番では最高の演技をする。

平成15年度 『キャッツ』

平成11年度とは脚本・演出等を刷新しての取り組み。テーマは「やりぬくのさ、やればできる！」

現在、11月の上演に向けて準備中である。

